



世田谷稲門会

世田谷稲門会会報

平成23(2011)年7月20日

第47号

発行人 世田谷稲門会 一夫利行子次男
 発行人 上村保邦尚秀信利昭
 編集 川島坂内子原林
 〒156-0043
 事務局 世田谷区松原5-19-4
 東京都 田吉明方
 TEL/FAX03-3324-7046

先着順としますので
 早めにお申し込み下さい。
 キャンセルは郵便書留
 希望もしくは送金先銀行
 口座または郵便口座番号
 を明記のうえ8月30日ま
 で下記へファックス、Eメ
 ールでお知らせいただけ
 れば、返金いたします。

申し込みは同封の郵便
 払込取扱票用紙にて8月
 10日までに送金をお願
 いします。
 会費8000円
 運営いたします。
 テーブル椅子席で食事とド
 リンクを楽しんでいただ
 いた後、校友を中心とした
 プロの方々のボランティア
 ア出演による世界の音楽、
 シャンソン、バイオリン演
 奏、ピアノとマンドリン演
 奏によるカンツォーネを
 お聴きいただきます。

今年度の納涼会は9月3日(土)
 午後6時から9時まで、三軒茶
 屋のキャロットタワー26階の
 レストラン「スカイキャロット」
 で開催します。
 本年はキャロット会が企画
 運営いたします。

キャロットワールドミュージックコンサート
9月3日(土) 納涼会
 キャロット会主催



マンドリン: 晝間寛子 ピアノ: 渡辺郁子 カンツォーネ: 東直彦 バイオリン: 牧山純子 シャンソン: 花田玲子

世話役 富塚兆弥
 ファックス 03・3410・9776
 Eメール tomizuka@st.cstv.ne.jp
 スカイキャロット
<http://www.skycarrot.co.jp>

母校の今 — 第20回 —

＜早稲田大学の付属校・系属校＞紹介 連載 — その5 早稲田大学系属「早稲田実業学校」



「早稲田大学系属・早稲田実業学校」(以後、早実という)の歴史は、早稲田大学(以後、早大という)の前身・東京専門学校が大学として基礎を確立した頃、その創立者・大隈重信侯の教育理念の実現と、その建学精神に基づく中等教育をめざし、「早稲田実業中学(3年制各種学校)」が設立された1901(明治34)年に始まる。その後1917年の早稲田騒動により、一時大学の傘下を離れるなど幾多の変遷を経て、1963年には早大の系列に復帰、創立時の形態に戻った。そして現在、早大の系属校として小中高一貫教育を行い、早大への推薦入学制度を有する男女共学校に移行している。

同校の理事長は早大の現総長の鎌田薫氏。中・高等部校長は早大・教育総合科学学術院教授の渡邊重範氏(写真右上)。初等部校長は多字邦雄氏である。創立当初から、校是として、「去華就実」(華やかなものを去り、実に就く)を、校訓として「三敬主義」(他を敬し、己を敬し、事物を敬す)を掲げる。

2001(平成13)年には創立100周年を迎えたのを機にキャンパスを、それまでの早稲田鶴巻町から国分寺市本町に移し、中学部を中等部と改称。さらに、翌年4月から中等部(総生徒数718名)、高等部(同1181名)ともに男女共学制を実施、さらに、初等部(同640名)を開設した。また、早実は他の早大の付属校や系属校と同様、受験生の間でその人気が高く、首都圏の難関校の一つとなっている。早大への推薦枠は他の付属、系属校とは別に独自の枠として定められており、平成23年3月の卒業生388名中382名(98.5%)が推薦で早大の各学部に進学した。



各界で活躍する同校の卒業生も多士済々で、国民栄誉賞に輝く王貞治氏、マルチタレントのテリー伊藤氏等々枚挙に遑がない。本年4月には創立110周年を迎え、早実はその内容の更なる充実と進化発展を目指す。(大内 秀行/記)

義援金募集活動活発

第20回総会開催

川淵日本サッカー協会名誉会長が講演



第20回世田谷稲門会総会が、担当部長に出席していただき5月21日(土)、千代田区九段下のホテルグランドパレスで開催されました。

第1部は麻生卓司幹事長の司会で進行。この1年間の物

今年の総会は、会員85名が出席、来賓として大学から田中愛治理事と三枝誠大学地域

故会員及び東日本大震災被災者への黙祷のあと岩上健一会長が議長を務めて議事に入り

22年度の活動報告と決算・監査報告及び23年度の事業活動計画と予算案の説明、次いで役員改選案が提案され、満場一致で承認されました。

承認された新年度活動計画の主なものは、

- ・東日本大震災への義援金寄付。
- ・会員数は428人となったが引き続き、会員数500人を目指して地道な増強活動に取り組み。
- ・本年度納涼会は9月3日(土)に三軒茶屋のキャロットタワー26階で開催する。
- ・会報及びホームページなど広報活動の

更なる充実を図る。

- ・2012年秋に世田谷稲門会設立20周年を迎えるにあたり、準備を開始する。
- ・校友会、東京都23区支部、近隣稲門会活動への参画や地域の三田会との交流の輪を広げる。

引き続き田中理事から大学の近況報告があったあと日本サッカー協会キャプテン・名誉会長 川淵三郎様から「夢があるから強くなる」という演題で講演していただきました。

懇親パーティーは江原利次監事の司会で開始、三枝部長の挨拶・乾杯のあと、歓談・会食。併せて3人の新入会員の紹介、納涼祭の案内、稲門祭福引券の販売などが行われて盛り上がり、最後に応援部OBの池田友彦会員のリードで高らかに校歌を歌い散会しました。

なお会場には、新たに募金箱が置かれ、集まった義援金は大学を通して被災された学生に送られることになりました。

(寺島 邦夫/記)

井澤貞夫氏 (昭和35理工卒)

露木 茂氏 (昭和38年政経卒)

総会会場で、けやき会で義援金募集

5月21日の総会で皆さんに、東日本大震災で被災された学生支援・校友支援の募金をお願いしたところ、7万円のご好意をいただきました。「早稲田大学校友会東日本大震災救援金」として校友会を通して届けたいと思います。皆さんに感謝申し上げます。

またけやき会(ブロック)でも集まりの折、支援金を募集ご好意の3万円を「WASEDAサポーターズ倶楽部」を通し、被災した学生の支援金として拠出いたしました。

(事務局)



世田谷稲門会の義援金をNHKへ持参

岩上健一会長は6月8日(水)午前、渋谷区神南にある社会福祉法人NHK厚生文化事業団を訪問、先の今年度総会で承認議決した東日本大震災に対する世田谷稲門会からの独自の義援金10万円を、厚生文化事業団の中村季恵理事長に手渡した。

岩上会長にはNHK出身の土倉享一会員(前会長)と同じくNHK出身の中井盛久会員が付き添い立ち合った。

この席で岩上会長から「今回の未曾有の大震災で犠牲になられた方々にお悔やみ申し上げるとともに被災地の皆さんが1日も早く立ち直られるよう祈り、お見舞い申し上げたい。心ばかりの義援金だが、出来るだけ速く活かして頂きたい」と述べた。

(中井 盛久/記)



総会講演要旨

川淵名誉会長

私の学生時代の人気スポーツといえば、野球、ラグビー、アメフトで、サッカーは全く人気がなかった。大学サッカーより高校のほうが観客が多かったくらいのものであった。1958年に日本で開かれたアジア大会でも結果を出せなかった状況に、日本サッカー協会は、



卒業の3年後にはオリンピックに出場した。日本は東京オリンピックではベスト8、メキシコでは銅を獲得したもののその後、長い低迷期に入り、ワールドカップは夢のまた夢。まして、日本での開催など考えられもしないことであった。90年イタリアW杯では開催国に立候補したものの、条件をみたすスタジアムは不足。放送権料など、要するに、マ

遠征を企て、私も参加

64年東京オリンピック、続くメキシコへの強化に向けて、60年、ヨーロッパを遠征を企て、私も参加することになった。その折、滞在したドイツで、サッカーの恩師、後にJSL誕生のアドバイスを受けたクラマーさんと出会って、多くの教えを受けた。そして、ドイツの豊かなスポーツ文化、環境、なによりも美しい緑の芝生に衝撃を受けたことは忘れられない。

1チャンダイズ感覚はゼロであった。しかし80年からは、企業スポーツであったサッカーをプロ化する動きがでてきた。折しも、バブル景気に入っていた。78年には、サッカーが小学校の正規の授業になり、漫画「キヤプテン翼」の爆発的なヒットなどが、プロ化への底を押し上げた。

いよいよ、プロ化へ動き出し、参入企業を募ってみると、参加希望が予想を上回り、どこ

世田谷稲門会・平成 22年度決算報告書及び 23年度予算

(単位:円)

Table with financial data including Income (収入) and Expenses (支出) for the 22nd fiscal year budget, 22nd fiscal year actuals, and 23rd fiscal year budget. It lists various items like membership fees, event costs, and administrative expenses with corresponding amounts.

22年度実績の 次期繰越金 内訳
現金11,808 銀行預金294,096 ゆうちよ預金208,067

を削るか、非常に苦慮した。なかでも、住友金属の茨城県知事、鹿島町長とも一丸となった、誘致の熱意には動かされた。私の考えているプロ化のコンセプトは、サッカーがあくまでも、企業ではなく、地域に根ざしたスポーツである、

ということだ。現在、サッカーの年間観客動員数は最高で1000万を超えたが、このなかでサッカーを取り巻く諸々の問題がおきたときに、私の頼みとする理念がある。それは、

- 1、日本のサッカーの水準向上及びサッカーの普及促進
2、豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与
3、国際社会における交流及び親善への貢献
これをふまえていけば、将来とも、まちがいはないと思っ

(文責/兼子)

部会だより

俳句

薫風香る5月のさくら句会は10名の会員が桜新町区民集会所に集り、兼題の『筍』及び自由句を持ち寄って爽やかな季節の中で楽しみました。当日の優秀句を紹介します。

筍や掘る人のなくはや5尺	江原 利水
十葉の香立つ抜かれしものの中	沼田 宣子
雨戸引くけさ筍の置いてあり	谷中 勝
老いてなお川の字で寝る子供の日	草谷 好孝
姉妹アメリカ生まれ花水木	暮田 上馬の
余震なほ礎に降り積む松落葉	松尾 まもる

6月の句会の兼題は『梅雨』です。素晴らしい日本の四季の移り変わりを俳句を通して私達と一緒に楽しみませんか。

(江原 利次/記)

芸術・芸能鑑賞

(岡村喬生氏のイタリア公演が実現)

会員であり、日本を代表するオペラ歌手・岡村喬生氏の新国際版『マダム バタフライ』が[第57回ブッチーニ・オペラフェスティバル]にて8月6日、11日、18日の3回公演で開催が決定した。各種応援ツアーがあり、公演成功に向けて鑑賞部会でもぜひ協力したい。

*4月以降の鑑賞会では、4月10日に岡村さんのライフワークの『冬の旅』が東京文化会館で8名参加、変わらぬ美声に酔いしれた。金さんの「アンサンブル of トウキョウ」の定期演奏会が4月12日にスタートし、年内に7月1日・10月3日・12月22日の3回行われる。東京芸大出身の皆さんの、演奏のレベルの高さに感服した。5月11日に[人形浄瑠璃・文楽]は参加者10名で、竹本源太夫と鶴沢藤蔵の襲名披露口上の機会に恵まれ、終演後豊松清十郎さん案内で舞台裏見学や稽古場での実物の人形を手にしての体験もあり参加者大変好評を得た。5月27日は好評の「三越落語会」に10名参加し、落語芸術協会会長を務める歌丸師匠の巧みな話術に堪能した。7～8月の鑑賞会は今夏は酷暑が予想されるので休みとしたい。9月以降の予定は後日案内致します。(新入会を歓迎します。現在会員45名)

世話人：柏 良子 麻生卓司 鈴木宏治
申込み先：鈴木 (TEL/FAX 03-3307-2201)
(鈴木 宏治/記)



食べ歩き

(1) 5月1日、東京府中競馬場貴賓室に於いて有志による観戦昼食会を開催した。参加者は31名、付近の木々は新緑一色に包まれ、芝生の青も目に優しかった。

この会も以前は、年1回1泊旅行を兼ねて福島、京都、新潟と各競馬場を観戦していた。特に福島は2回も訪れており、現地の稲門会の方々と交流し、楽しい思い出の地でもある。その競馬場がJRAによれば今回の東日本大震災による被害で例年の夏の開催はできず、秋を目指して修復工事中とのこと。

私共も1日も早く被災地が復旧され、今までどおりの日常が戻ってくることを願ってやみません。

(2) 6月26日、第48回例会を開催。今回は新宿「車屋本店」での日本料理の会食。出席者は33名、会場はゆったりした和室の椅子席で、季節の色を盛り込んだ伝統の味覚、和食の贅を味わった。

(柏 良子/記)

ウォーキング

原則としてウォーキングは毎月第2日曜日に開催されますが、6月は通常の都内コースと趣きを変えて、神奈川県新松田に午前11時集合の上、今が盛りの「開成あじさいの里」を散策してから、目的地のアサヒビール工場でビールの試飲とレストランでの昼食を楽しむスケジュールとなりました。帰路には日本酒の醸造元での試飲と買い物もでき、愛飲家にはなんとも嬉しい散策コースとなりました。

8月は猛暑を避けて休みとなりますが、9月11日(日)は、調布駅～駅前商店街ゲゲゲのパネル～大正寺～布田天神～虎狗神社～深大寺散策を予定しています。

なお、ウォーキング部では、来年3月までの月別の詳しいコースを用意していますので、参加したい方は連絡下さればお送りします。

(江原 利次/記)



パソコン

① 総会開催

3月22日に開催予定であった23年度総会を、東日本大震災のため延期、4月12日に開催し、以下の議事を審議し、承認を得た。

1) 23年度世話人の選出

代表世話人(高橋毅氏)他企画・会計・会計監査全員の留任を決めた。

2) 会計報告

会計担当(薄井好雄氏)の報告及び会計監査(竹村晃氏)の監査結果の報告を承認した。

3) 23年度活動計画

- ・22年度と同様に、企画担当を中心に、各種ソフトを使用し、パソコンの可能性を広げる。
- ・例会は第2・第4火曜日とし、節電に協力し、例年の8月のほか、7月も休会とする。

② 活動状況

上記総会決定に沿い、毎回10人前後の部会員の参加を得て、活動を続けている。

(高橋 毅/記)

ゴルフ

東日本大震災の影響で4月1日予定のコンペは中止を余儀なくされました。

A) 第4回世田谷三田会・稲門会懇親コンペ

快晴に恵まれた5月19日(木)稲門会主催の下、日高CCにて開催されました。参加者は三田会より12名、稲門会から16名合計28名でした。今回から採用された各会上位5名による団体戦は、全体の1位から4位までを稲門会が独占したこともあり、稲門会の圧勝となりました。

B) 第67回ゴルフコンペ

梅雨の晴れ間となった6月3日(金)桜ヶ丘CCにて52名の参加を得て開催されました。優勝者：総合・熊谷慶紀、Gシニア・川村保夫、シニア・伊藤誠三、レディーズ・井澤美知恵。足場が良いこともあり、桜ヶ丘CCでの継続開催を望む意見が多く出されました。

C) 今後の日程：第68回コンペ 9月6日(火)ファイブハンドレッドC、第5回三田会懇親コンペ10月開催(三田会主催)、第69回コンペ11月17日(木)習志野CCクイーンコースの予定 (工藤 隆司/記)



カラオケ

カラオケ部会はクリーン・オープン・オーソドックスを基本にしています。

定例会は毎月第1土曜日13:00~17:00に「コートダジュール下北沢」で、3部屋各5~6名、前後半で部屋とメンバー入れ替え7、8曲歌います。

案内状に毎回の収支報告と返信ハガキを添え出欠から事前に部屋割り表を用意します。会費2,000円男女均一で飲み物2回注文、おつまみとキャンディー付きです。

参加者は3月5日第48回・16名、4月2日第49回・15名、5月7日第50回・16名。

6月4日第51回恒例の旅行(9名参加)。千歳船橋から車内カラオケで東丹沢の七沢温泉「盛楽苑」へ。露天風呂に入り舞台付大広間で名物の鮎・猪鍋を堪能。各人5曲を熱唱、校歌斉唱と東北大震災復興の「頑張れニッポン」のエンルで締め、帰途もカラオケ三昧の日帰りでした。

このように毎月好きなジャンルの曲を歌いまくる健康カラオケです。

(倉田 豊/記)

囲碁将棋

第11回オール早稲田囲碁祭り(東日本大震災チャリティ囲碁祭り)開催について

本年4月5日開催の実行委員会の決定に基づき、第11回オール早稲田囲碁祭りを実施致しました。

日時：平成23年6月4日(土)午前10時開始。場所：市谷日本棋院2階大ホール。参加チーム：1チーム5人構成で52チームのハンディ戦、参加者は総勢で280余人、級位者クラスの個人戦も含まれました。参加者メンバーは早大囲碁会OBアマ高段者から級位者まで。寄付：賞品の協賛を頂き、その分を現役と大学に寄付致しました。

我が世田谷稲門会囲碁部からは池松6段、武藤6段、斉藤5段、萩原2段、矢田2段が参加しました。約300人近くの早稲田マンが一堂に会したので熱気ムンムン、試合も白熱しました。とりわけ、池松6段が8段の相手から金星を挙げるなど、快挙がありましたが、団体戦の優勝は豊島チームで、世田谷チームは全体として惜しくも賞を逃しました。熱戦は5時近くまで続き、最後に校歌で締めくくり三々五々に解散しました。

(矢田 廣/記)

スポーツ観戦

5月28日(土)東京六大学野球春季早慶戦を雨の中15名が観戦しました。強い早稲田はどこに行ったか疑問の残るシーズンでしたが、優勝のかかった慶応は、やはり勢いと姿勢が違い、試合は残念ながら1対6の完敗でした。早期に早大の意地と奮起を期待したいものです。前期は斎藤投手を中心にした強力メンバーで大学日本一になりながら急降下した実績をみると何か落とし穴があったのではないかと考えられます。早稲田の強い間に他校が行った強化策に比較して早稲田の慢心と油断があったのではないかと懸念され、他のスポーツは大丈夫かと気になるシーズンでした。大学、部、指導者の強化方針と対応を知りたいものです。来期の強い早稲田を期待しています。(岸田 正和/記)

麻雀

- 3月13日(日)地震の余震と原発の炉心溶融の恐怖もさめやらぬ青天の1日、部員の安全確認も兼ねて日程通り開催を強行した。当日は28名が集い、互いの無事を祝いながら賜杯争いに興じた。優勝 吉村善智、準優勝 武田一成、3位 小池早苗、4位 下谷内堯、5位 加藤禮子、6位 長谷川義樹
- 4月16日(土)3月期決算のせいもあり24名が集い順位を争った。優勝 河村卓郎、準優勝 田島功統、3位 長谷川義樹、4位 吉村善智、5位 吉村登喜子、6位 郡山弘文
- 5月15日(日)大震災の被害を悼むかのような曇天の午後、大田区より2名の強豪を迎え、口と腕を競った。試合は初回から飛ばした脇坂氏が後手もペースを上げ、201点という麻雀部史上最高得点を叩き出し、2位以下をダブルスコアで突き離し楽々優勝した。優勝 脇坂元彦、準優勝 高橋義幸、3位 吉村登喜子、4位 長谷川義樹、5位 秋元孝禧、6位 福田善朗 (下谷内 堯/記)

釣り

実績報告

- 4月2日 霞ヶ浦ホソ乗込み真鯛釣り4名参加。28cm3枚出る。蓮田にて蓮購入す。
 4月24日 鈎崎沖真鯛、鯰、鯖釣り。7名参加。真鯛5枚他大型鯰、鯖15~25匹釣る。利一丸。
 5月1、7、14、15、21日 地藏堂川にて虹鱒、岩魚59匹、柴田単独釣行。
 5月29日 平塚沖キス釣り、台風の為中止。

今後の予定

- 7月20日 荒川手長エビ釣り。
 7月23~24日 館山湾キスボート釣り(1泊)。
 7月31日 東京湾イシモチ釣り。金沢八景新健丸。
 8月6日 江戸川ハゼ栈橋釣り。
 8月28日 キス、アナゴ釣り。川崎つり幸。

(柴田 昇/記)

青年

「仕事があっても参加できる」「若手でも参加しやすい」を合言葉に毎回楽しく盛り上がっています。ある時は自由闊達な会話に刺激を求めて。またある時は仕事で疲れた心身を癒しに。

マイペースで過ごせる素敵なひとときを提供中です。

昨年発足したばかりの部会ですので新規参入しやすく、年会費無し、都度飲み代を持ち寄るだけで参加できるシンプルさも魅力です。

やる気十分の幹事達がずらりと揃っていますので、何か面白い新企画はないか?と常に探求しながら進化していきたいと思っています。

現役で仕事をされている「青年の心を持つ」皆様! 年齢制限などありません、一度参加してみませんか?

エントリーは setatou.seinen@gmail.com にて承ります。

幹事一同心よりお待ち申し上げます。

なお、直近の部会の模様は次回以降にレポートする予定ですので、どうぞお楽しみに!

(薦田 誠/記)

写真

(1) 実績報告

例会: 10時~13時30分 東京農大校友会館 教室
 1月20日、3月17日、4月21日、5月19日、6月16日
 2月は休会でした。

(2) 今後の予定

例会:
 7月21日、9月8日、10月20日、11月17日、12月は未定、
 8月は休会です。

今後についてはホームページの利用を考えて写真部会メンバーと打ち合わせて結果をご報告致します。

(種谷 鴻成/記)

ブロック会だより

さくら

開催日：平成23年6月5日(日)

場所：桜新町、イタリア料理の『ミラノガーデン』

参加者：新入会員渡邊義治氏を含めて、総勢で21名。

テーマ：『わが人生を語ろう』

学生時代の早稲田の思い出、そのときに起こった出来事、年配の方が多いため健康のこと、海外旅行のこと、最近の世相、今年の景気、政治等。趣味でも過去の仕事でも第1の人生、第2の人生、テーマはなんでも結構です。何か



ふつつつと燃える思いが誰でも持っていると思います。前回までに中瀬正一氏、前原祖彦氏、関根昌一氏、上田忠雄氏、栗山佳三氏、若林昭男氏、柴田昇氏、井山庄司氏、飯島勲氏、岡本一精氏、永井達也氏、松尾守氏にお願い致しました。なお、今回は小泉威氏に学生時代の思い出を語って頂きました。

最後に、前原祖彦氏より資料を基に、フィンランドの例をとり使用済み核燃料につき、地下500mの深さに保存しても、安全性については10万年後にやっと安全になる等。これは人類の歴史を遙かに越えることになるなど、背筋が寒くなる話がありました。

(矢田 廣/記)

西北

・例会 4月22日(金)参宮橋の「新日鉄代々木倶楽部」にて開催。今回はお国自慢として富山県出身の桃井清治氏(昭44政治)に“高岡の歴史、文化、産業”についてのお話を伺った。参加者25名。次回は9月を予定。

・西北雀会 毎月第4木曜日12時30分より下北沢にて開催。参加希望者は幹事桃井清治氏まで。

・西北ゴルフ会 4月25日(月)青梅ゴルフ倶楽部にて開催。7名参加。終了後梅丘に集合し反省会。

・お茶の会 石州流野村休盛派・盛田伯雲先生(昭38年卒)宅に4月22日(金)集合し、お茶の会を催しました。茶事の基本的なお話を伺い、茶の湯を楽しみました。5名参加。毎月1回を予定。幹事岩村明彦氏。

(松浦 晋三郎/記)



玉川

2月に新年会を開催した後、東日本大震災が発生した事により次の行事を中止しました。

3月：カラオケを楽しむ会

4月：ゴルフ会

6月：春のグルメ会

毎月開催している愛唱歌の会は3月は中止しましたが、4月以降は通常通り行っています。現在、原則メイン行事開催月以外に世話人会を開催して会の運営、行事の企画等について打ち合わせを行っています。去る5月12日にも開催し、7月に予定している総会等についての相談をしました。今後も従来にも増して活発な活動を行い、会員及び家族相互間の親睦を深めて行く所存です。

(太田 隆/記)

きぬた

きぬた会の平成23年度第1回の会合は、梅雨の晴れ間に恵まれた6月5日(日)に、新日鉄代々木倶楽部にて、17人の会員の参加を得、開催された。

先ず昨年まで代表幹事を務められた吉村豪介氏並びに川村保夫氏が交代され、高橋毅代表幹事(留任)並びに河村卓郎氏(留任)・国澤俊一氏(新任)・畔上孝夫氏(新任)の4氏が幹事に就任する旨報告された。

次に岩上世田谷稲門会会長の乾杯の御挨拶の後、和気あいあいとしたなかで会合が始められた。会場が従来と異なり、一般の食堂の一角であったため、当初は雰囲気が悪いのではとの懸念もあったが、むしろ堅苦しさがなくて良いとの出席者の声も頂き、幹事一同ほっとした次第だった。

会合は予定の2時間を大幅に超過し、およそ3時間後にお開きとなった。其の後明治神宮の菖蒲園を散策する予定だったが、未だ一分咲きとのことで、中止となった。

第2回会合は、10月頃に開催を予定している。

(高橋 毅/記)

け や き

好天の4月24日(日)地元・経堂の「咲くら領」に31名の会員が集い、本年度第1回総会並びに春季懇親会を開催した。先ず東日本大震災で亡くなられた方々への黙祷の後、元「日活」映画監督の武田一成氏を講師にお迎えし、お話を伺った。「私は母校文学部美術史科を卒業し、昭和29年『日活』の公募1期生として撮影所に助監督として入社した。野口晴康、新藤兼人、鈴木清順各監督に師事。この間2年間、日活在籍のままパリの映画高等学院に特別聴講生として留学。当時の先端技術を学んだ。昭和42年監督に昇進。『先生の通信簿』でアジア映画祭最優秀作品賞、監督賞を受賞した。ところが、その頃から、映画業界は斜陽となり、日活も文芸物、青春物、ニューアクション路線から、ロマンポルノ路線へと舵を切り、映画を愛する私は、この流れに従い、下町人情ポルノ作品を数多く制作し、傾いていた会社の収益に貢献してきたと自負している。

昭和58年会社を退職しフリーの監督となり、テレビを主体に数多くの作品を監督制作するかたわら、今村昌平監督のお誘いで、世田谷区にある『日本映画専門学院(現日本映画大学)』で講師として後進の指導育成に励んで今日に至っている。映画監督の年収は個々人の力量で差が大きく、100倍位の差はザラである。皆映画が好きで、映画が撮ればいいので、あまり収入は気にしていない。私は今も映画を愛しており、かつて指導した後輩達がテレビや映画で活躍しだしたのを愛情を持って嬉しく見守っている

次いで乾杯の後、新入会員の自己紹介、既存会員の近況報告、連絡事項・方針説明・質疑応答等を経た後、校歌を斉唱し次回の再会を約し散会した。(下谷内 堯/記)



部会・ブロック会からのお知らせ

- キャロット会
今後の予定 9月3日(土) 納涼会 企画・運営
11月26日(土) 忘年会
- ボウリング部会 千歳会は休載しました。

世田谷稲門会ホームページもぜひご覧ください。

(Google, Yahooで「世田谷稲門会」で検索して下さい。)

<http://homepage3.nifty.com/setoupa/>

会員のひろば

東日本大震災に想う

関根 昌一(昭23年法)



平成23年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.2の巨大地震

の大津波により、亡くなった方々のご冥福を祈ると共に、遺族の皆様へ哀悼の意を表したいと思えます。

今回太平洋沿岸、東北地方の青森、岩手、宮城、福島、4県、関東地方の茨城、千葉の2県の広範囲を、地震、津波が襲った。被害の状況は刻々と、テレビ、新聞等を通じ全世界にむけて発信された。国土地理院は青森から福島県の沿岸を撮影した2085枚の航空写真を解析した。津波による浸水範囲は500キロにも及び、その面積は東京23区の7割以上を占め、大坂市の2倍を超え、津波の高さは10メートルを超えた。宮城県沖、リアス式海岸の続く三陸地方においては、さらに高い津波が襲い、宮城県女川町の中心部

では実に17メートル位の高さに達し、数多くの犠牲者を出している。岩手、宮城、福島県の沿岸各地は、浸水、火災に攻められ、家財は勿論、車両等、ありとあらゆる形あるものが、破壊され、瓦礫と化し壊滅状態となった。災害発生直後、被害地の実情調査に向かった、早稲田大学、柴山教授(海岸工学)と、東北大学今村教授は、今回の大津波の被害は2004年インド洋で発生したインドネシア、パンドアチエの被害に匹敵すると述べている。

それに加え、東京電力福島原子力発電所の爆発災害は付近の住民を一層の不安に陥れたばかりか、世界各国のエネルギー政策に、一考を促す深刻な問題を投げかける事になりそうだ。「見える牙」の恐ろしさは目を覆うばかりだが、「目に見えない放射能汚染」の不気味さはこれ程怖いものはない。例えば1995年に起きた阪神・淡路大地震や2004年の北陸地方中越地方地震発生後の状況を考えしてみると支援活動の困難さがある。阪神・淡路、北陸中越の場合は、災害地域がほぼ一定しており比較的被害の少なかつた近隣地区よりのボランティア活動が順調に運営出来た

のと異なり、今回は地震、津波、原子力施設の破壊による「放射能汚染」の複合災害であり、災害地域も広範囲にわたる、想定外の災害であり、東北地方は、3月とはいえ真冬に近い気温の地域でもあつて、救援活動も困難を極めた事と思う。幸いなことに今日では、世界各地で起きた事は、直ちに世界の国々に伝わる状況があり、世界184カ国、39機関より支援の申し出が殺到し、それぞれの専門分野の方々の派遣が決定したようである。

今世界の国々の人がわが国の動向に関心をよせている。なかには来日中、災害を体験したインドの人はこう語っている。「地震に動揺している外国人を机の下にもぐらせ、揺れが治まった時点で、手際よく避難所迄誘導してくれた。その間日本人は誰もパニックに陥らず、冷静に対応しているのを見て驚いている」と。また中国「環境時報誌」には、数百人の人々が広場に避難し、お互い助け合い、支給された、毛布や、食料品を仲良く分け合いながら時間を待ち、3時間位たって、他の避難所へ移動していったが、立ち去った跡にはゴミ一つ落ちていなかったのを見ていた中国人の

話を記載し「日本人の冷静さには世界の人々を感心させただろう」と述べていた。

又、東北大学で教員を勤めている「田園(ティエン ユアン)氏は春休み帰省中の北京より激励のメッセージを送っている。「自然災害は人類共通の敵である」という中国救援隊の言葉に私は共感する。

横暴の限りを尽くす自然の前には、人類はか弱で無力なものだ。しかし互いに助け合う精神は人々を励まし困難から脱出する為の有効な手段になる。災難は私達を成長させてくれる、と今は信じていたい……。

最後に如何なる苦難にも耐え、乗り越えてきた東北人特有の「内に秘めた粘り強さ」、「たくましい精神」を発揮し、再生の道を歩んでいくでしょう。

今回は国内は元より、世界中の人々が応援してくれているので希望をもって頑張ってください。



©WASEDA UNIV.

ITは凄い

70年来の疑問解決

小山田安宏(昭31年政経) 私の祖父 小山田銓太郎は、

明治6(1873)年明治政府の招請で来日したフランスの法律学者ボワソナードから直接フランス語を学び、その後陸軍士官学校や東宮御学問所等でフランス語の教師をしていたが、丁度同じ年に来日し、ボワソナードの世話で東京外国語学校のフランス語教師をしていたフランスの宣教師アルチュール・アリヴェと知り合い、以後、身寄りのないアリヴェを日本滞在中ずっと世話をし、彼が明治35(1902)年に亡くなったときは、青山墓地の小山田家の墓所に葬ったというのを、亡くなった父から聞いていた。墓碑には「第一高等学校教師 勲四等 J.-B. Arthur Arrivet Bordeaux 22 Octobre 1846 Tokyo 13 Mai 1902」と記してあった。

子供のころ、彼岸の季節にそのお墓に家族でお参りに行くとき、よく、両親から「アリベールさんのお墓」ということを耳にしていた。有兵衛さんとはいつ

たい誰だろうと不思議に思っていたが、私が長ずるに従って判ったことが、上に記した通りである。爾来、70余年間、アリベールさんについて調べてみたいという思いが頭の隅にこびりついてた。

先日、グーグルを使っている



物館のKさんにメールで、掲載された論文のコピーを送ってくださるようお願いした。3日を経ずして郵送されてきたコピーによると、「アリヴェの足跡」の章で、明治6(1873)年来日以来、18年間第一高等学校の教壇に立ち続けたが、35年5月13日に亡くなった。アリヴェは熱心な教師であると同時に、日本におけるフランス語教育にも大いに尽力したとある。その銅像が仏法科有志の募金により制作され、明治37(1904)年1月、フランス公使からの来賓を招いて除幕式が行われた。この銅像は、現在、東大駒場キャンパスのファカルティ・ハウスの庭に置かれているとのこと。

早速、駒場の東大キャンパスに出かけた。初めて見るアリヴェさんは、なかなか立派な顔をしており、今まで会えなかった人と初めて会えて、とても懐かしい感情が生まれた。このような人が我が家の墓地に眠っていることが嬉しく思えてきた。かくて、ITにより、70余年来の疑問が見事に解明されたのであった。

ふつと思いついて、アルチュール・アリベールと書いて検索をしたら、何と、「銅像と写真に刻まれた駒場の記憶アルチュール・アリヴェと第一高等学校」という論文が東京大学生産技術研究所の技術報告集に掲載されていることが判った。

早速、これを書かれた駒場博

新入会・退会・住所変更等のお知らせ 平成23年6月16日現在

名簿〔平成21年3月発行〕後、会報40号～46号掲載以降分

〔新入会員〕

〔退会会員〕

氏名	卒年・学部	郵便番号	住所	電話	FAX	氏名	卒年・学部	理由	住所
粕 文夫	昭46政経	個人情報につき不掲載				高橋善一郎	昭31商		
小倉 康弘	昭26理工					水澤美栄子	昭54文		
加藤 滋紀	昭38政経					坂本 成	昭35法		
林 幹夫	昭36 商					池田 正敏	昭41文		
谷浦 俊徳	昭42 商					渡辺 正明	昭43文		
大野 良弘	昭36政経					田下 佳彦	昭46理工		
渡邊 義治	昭33理工					森 智之	平07商		
大川 武雄	昭61 文					木村 威啓	平19政経		
						寺澤 隆夫	昭29商		
						蒲原 信一	昭33政経		
		池田 良夫	昭36法						

〔住所変更・訂正〕

菅原 俊軌	昭47教育				
-------	-------	--	--	--	--

訃報

寺澤隆夫氏



昭和29年商学部卒。ゼネラル石油に入社され、ゼネラル物産の要職を歴任されました。

（逝去日時）6月5日午後1時14分関東中央病院に於いて肺ガンにより逝去されました。享年79歳。

生前御本人の御遺志と奥様から葬儀は身内の家族葬で行われるとの事なので、敢えて世田谷稲門会としては控えさせて頂き、奥様から生前親交のあった方を指名して頂きました。

6月12日午後6時より渋谷区代々幡斎場にて御通夜、参列者は前原・平井・柴田・川村・守屋・森の各氏で御焼香しました。

6月13日午前10時より御葬儀・告別式。参列者は平井氏と前原。祭壇は寺澤さんに最もふさわしい御写真と白いお花で飾られ、よくあります献花の名札は一切なく大変清々しい式場でした。終わりに奥様から寺澤さんの来し方を話され、併せて皆様と長年の御厚誼に対し感謝のお言葉をいただきました。お骨の納められた後お清めの席で稲門会・ゼネラル物産

の代表として平井さんが献杯の御挨拶をされました。

私は29年同期卒で、偶々寺澤さんとゼネラル石油に入社しましたが、彼は今日まで稲門会・ゼネラルのお仲間とお付き合いされ、気配りもよく和やかな性格で皆から親しまれてこられました。

又几帳面で事務局長の頃会費未納者に都度督促され、結果97%納入の実績をあげられ今日の基盤とされました。そんな友人を失い残念ですが浄土で「おい、麻雀しよう」と言われると思います。謹んで御冥福をお祈りします。

蒲原信一氏



昭和33年政経卒、ゼネラル石油に入社、川崎市の病院に入院中のところ、

6月12日午後9時肺炎により逝去されました。享年76歳。奥様からの御連絡を頂き、葬儀等は身内で済ませ御遺体は慶応病院に献体されたとのことでした。

謹んで御冥福をお祈りします。（前幹事長 前原 祖彦ノ記）

注記 寺澤隆夫氏は事務局長として、蒲原信一氏は幹事として世田谷稲門会の発展に大変尽力していただきました。

事務局だより

東日本大震災の被害の報道が続くなかではありましたが、第20回世田谷稲門会総会を、ホテルグランドパレスで無事に終えることができました。月日のたつのは、はやいもので私が世田谷稲門会の幹事をやらせて頂いてから、丁度1年たちました。最初は何もわからなかつたのですが、少しずつわかつてまいりました。先輩の幹事の皆様の日頃のご努力に、感心いたしております。2012年の秋には世田谷稲門会設立20周年を迎えますが、何としても会員500名を達成したいものだと思います。とりあえずは、9月3日(土)のキャロット会主催の次の納涼会にむけて、多数の皆様の参加を、お待ちいたしておりますとともに、微力ですが、少しでもお役に立ちたいと思っております。宜しくお願ひ申し上げます。

（薄井 好雄ノ記）